

ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第51回

南吉のユーモアと 4コマ漫画

この夏、新美南吉記念館では4コマ漫画をテーマにした企画展を開催しています。「原口侑千・ごんのかから版4コマ漫画展」と題して、「ごんぎつねの会」の機関紙『ごんのかから版』で平成13年から平成26年にかけて連載された、原口侑千さんの4コマ漫画を紹介しています。

原口さんは岩滑の生まれで、幼い頃は南吉も歩いた道がまだ舗装されずに残り、往來を牛がのんびりと往く姿も見られたそうです。そのため、南吉のことは当たり前存在として、空気のように感じて来たのだとか。そんな原口さんが贈る4コマ漫画の内容は、3匹の狐「ゴン」「チロ」「ボン太」が、時には「兵士」をも巻き込んで、面白おかしく暮らしていくというものです。

新型コロナウイルスの流行で落ち込んでしまうようなことが多い今だからこそ、ユーモアあふれる4コマ漫画の世界を、ご家族やご友人と一緒に笑いながらお楽しみください。

ところで、悲しい結末を迎える「ごんぎつね」のイメージが強い方にとって、南吉と笑いは

無縁のように思われるかもしれませんが。しかし、実は彼の作品には豊富なユーモアが含まれています。

たとえばそれは、登場人物の性質が持つユーモアです。盗人らしくない盗人が登場する「花のき村と盗人たち」、酒好きなお和尚が出てくる「百姓の足、坊さんの足」など、南吉作品にはらしくない人物が頻りに出てきます。そうした本来のイメージとのずれが読者を笑いに誘うのです。

もちろん、筋書きからしておかしなものもたくさんあります。馬が自分の足がしびれて動けなくなったのを、ほかの馬に盗まれたのだと勘違いする「あし」。強い強いと噂され、すっかりその気になってしまった牛が、貨物列車に勝負を挑もうとする「大力の黒牛と貨物列車の話」。童話集を開いてみれば、思わずくすりとくる話が多いのに気が付くでしょう。中にはおならをテーマにした作品もあるほどです。

南吉がどうやってそんなユーモアを磨いたのかと考えると、まずは落語の存在が思い当たります。南吉は中学時代、友人か

ら落語全集を借りたり、自分でも落語を作って投書していました。また、いろいろな外国文学に触れていく中で、ルナールやチャペックといった、シュールであったりウィットに富んだ作品からも影響を受けています。何より南吉自身、時には童謡同人誌で「古美北吉」というペンネームを使ったりするなど、軽妙なしゃれつけを見せる一面もありました。

今回の展示で4コマ漫画を見てたくさん笑った後には、そんな視点から南吉作品を読み直してみるのも面白いかもしれませんね。

開催中の「原口侑千・ごんのかから版4コマ漫画展」は9月13日(日)まで。期間中、原口さんに似顔絵を描いてもらえるイベントを予定していますので、お楽しみに。詳細は7ページまで。

新美南吉記念館 堀崎倫弘



© 原口侑千

みなさんの(声)を聞かせてください アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あて先

〒475-8666

東洋町2-1 企画課

Eメール

kouhou@city.handa.lg.jp



今回の表紙は、未整備であった宮池エリアの整備を進め、今年3月にリニューアルオープンした「任坊山公園(宮池エリア)」です。宮池が一望でき、とても解放感がありました。ウォーキングを楽しんでいる方や、ベンチでゆっくり池を眺めている方もいました。マスク着用により熱中症になりやすいので、暑さに例年以上に気を付けながら、夏を楽しんでいきましょね。

(浅野)

編集後記

今 回の表紙は、未整備であった宮池